

氏名	石 田 浩 一
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1303 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 6 月 30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	<p>膠原病の肺病変に関する研究</p> <p>第 1 編 膠原病における抗肺抗体と肺病変および特異的肺抗原の検索</p> <p>第 2 編 全身性エリテマトーデスにおける肺病変についての臨床的研究</p>
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 長島秀夫 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編では肺線維症の発生机序に免疫異常が関与すると考え、Coombs & Gell のⅡ型アレルギーに関係する抗肺抗体に着目し、肺線維症が高率に認められる各種膠原病、全身性エリテマトーデス（SLE）、進行性全身性硬化症（PSS）、多発性筋炎・皮膚筋炎（PM・DM）、慢性関節リウマチ（RA）において抗肺抗体の検出を行った。また使用した肺抗原について検討を加えた。抗肺抗体の陽性率はそれぞれ 34.8%、64.3%、69.2%、30.3%であった。肺病変を有する PSS、PM・DM では抗肺抗体陽性率はそれぞれ 90.0%、88.1%であった。抗肺抗体の検出に犬肺抗原を使用した場合と人肺抗原を使用した場合との間に検出率に差を認めなかった。抗肺抗体と他の自己抗体の間には相関はなかったが、活動期の SLE の症例に抗肺抗体陽性が多い傾向が認められた。免疫して得た抗肺血清を腎臓にて吸着したあとでも肺と反応する抗体が存在していた。肺抗原にて免疫した家兔の腎糸球体に linear な deposit として免疫グロブリンの沈着を認めた。

第 2 編では、SLE の肺病変を胸部レ線写真にて検索し、臨床的な検討を加えた。胸郭内病変として、胸水貯溜 10%、肺線維症 24%、肺炎 8%、肺真菌症 3%、肺結核症 3%を認めた。肺線維症の陰影のパターンとしては streaky が最も多く、nodular, reticular, cystic な陰影は少なく、分布は中下肺野に優位であった。また肺線維症と抗核抗体、リウマチ因子、抗 DNA 抗体、抗肺抗体、血清補体価、腎障害との間には相関はなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は膠原病の肺病変について実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、従来十分観察されていなかった膠原病と抗肺抗体並びに肺病変との関係について PSSとかPM・DM及び活動期のSLEでは抗肺抗体の陽性率が高く、又膠原病の肺病変としては胸水貯溜、肺線維症などが多く、肺線維症については他の因子との関係に乏しいことなど重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。